

空土ファーム生きもの調査 5月報告書

1. 調査の概要

1) 調査の目的

山梨県北杜市須玉町増富地域にある空土ファームの耕作放棄地を再耕作することにより、生物多様性がどのように変化するのか、周辺環境も含め調査を実施する。また、その調査結果をもとに、一般向け自然観察会の実施や、ハンドブック作成も視野に入れる。

2) 調査方法

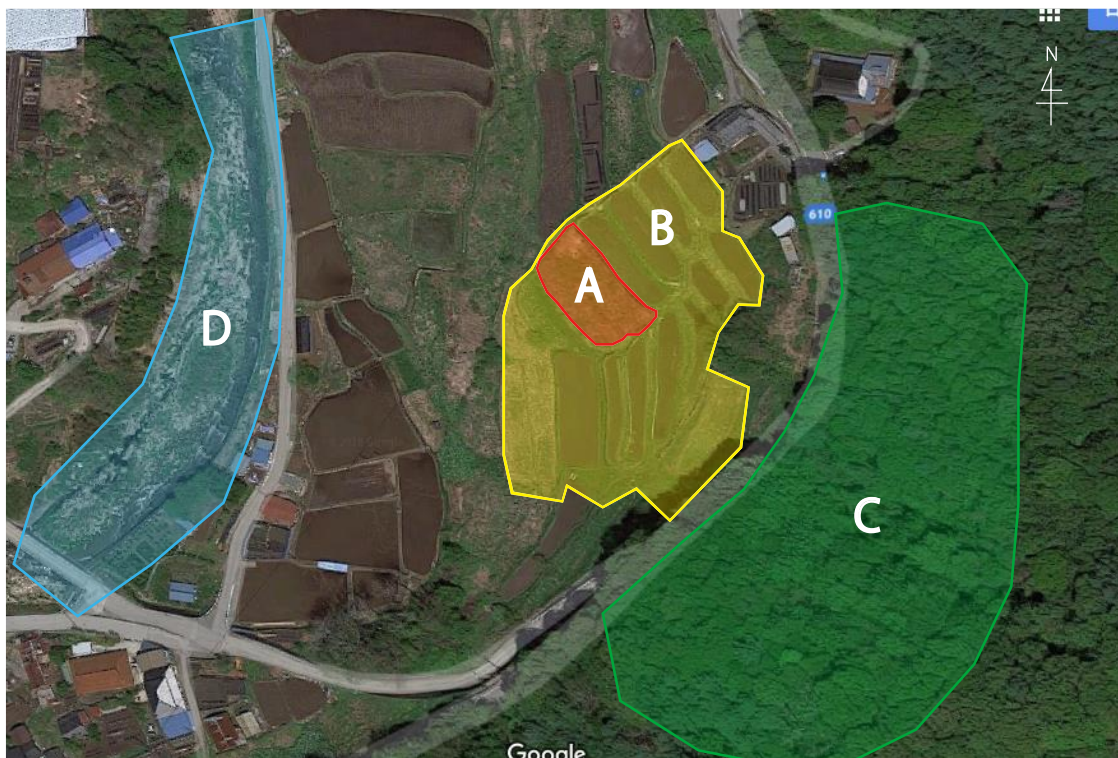
①調査レベル：主任研究員クラスによる現地調査

②調査地：山梨県北杜市須玉町増富地区「空土ファーム」とその周辺緑地（図-1）

なお、今回の調査では、4カ所の調査地点を設定し、確認された生きものはどの調査地点で確認されたかを記録した。

③調査対象：鳥類、チョウ・トンボ・バッタ類等の大型昆虫類を中心に、姿・声・行動等を確認すると共に写真撮影を行う。両生類、は虫類、ほ乳類等は適宜調査する。

④調査日程：2018年5月25日 4:00~15:00



A地点(2枚の新規耕作田)



B地点(棚田全体)



C地点(雑木林と水路)



D地点(塩川)

図-1 調査地全景および調査地点

2. 空土ファームで見られた生きものたち

1) 空土ファーム 生きものピックアップ

ギンイチモンジセセリ：里山の荒廃とともに減りつつあるチョウ

ギンイチモンジセセリは、元々田んぼの周辺の草原で普通に見られる種でしたが、里山環境の荒廃により草原が放棄されるなどして、全国的に減少しています。そのため、現在では環境省のレッドリストで「準絶滅危惧種」に指定されています。今回、空土ファームで観察されたということは、空土ファームの田んぼ周辺がしっかりと手入れされており、ギンイチモンジセセリの生息環境がしっかりと保たれている証であるかもしれません。



ハルジオンに飛来したギンイチモンジセセリ

2) 各調査地で見られた生きものたち



ダビドサナエ (B地点)

樹林に囲まれた河川環境を好みます。田んぼ周辺の小昆虫を捕食していたと考えられます。



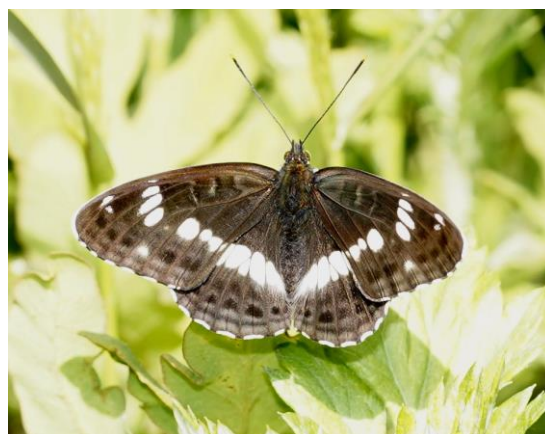
ホソミオツネントンボ (A,B地点)

水田環境を好むトンボの仲間。「オツネン」という名前の通り、成虫の姿のまま冬を越します。



ウスバシロチョウ (B地点)

丘陵地の草地にすむチョウで、ハルジオンの花に飛来していました。



イチモンジチョウ (B地点)

林縁部の草地を好むチョウで、食草のスイカズラなどの植物がある場所で見られます。



ツバメシジミ (B,D 地点)

シロツメクサに卵を産みます。撮影時はシロツメクサの花蜜を吸っていました。



ハラグロオオテントウ (D 地点)

体長 11~12mmの大型のテントウムシです。クワの葉につくクワキジラミを捕食します。



アオカミキリモドキ (B 地点)

体液にカンタリジンという毒を含むため、体液に触るとやけどのような症状が出ます。



ヒメゲンゴロウ (A 地点)

水の流れのない池や沼にすみます。他の昆虫や魚などを捕らえて食べます。



ヤマアカガエル (C 地点)

森林内や田んぼ周辺で見られます。小さい昆虫などを食べます。



ニホンアマガエル (A,B,地点)

田んぼの周辺や木の上などで見られます。A地点周辺で数多く見られました。



ムラサキマムシグサ (C 地点)

花びらに見えるのは仏炎苞と呼ばれる器官です。C 地点の林内で数多く見られました。



クワガタソウ (C 地点)

山地の比較的湿り気のある場所で見られます。C 地点のせせらぎの近くで見られました。

3) 空土★生きものコラム ～ゲンゴロウの仲間はなぜ水に潜っても平気なのか？～

空土ファームでは、5月より新たに開墾した田んぼに水を入れ始めましたが、水を入れはじめてからまだ間もない田んぼで調査をしたところ、すでにアメンボやゲンゴロウの仲間が見られました。これらの昆虫は空を飛ぶことができるので、早速近隣から飛んできたものと考えられます。

ちなみにゲンゴロウの仲間は、カブトムシやテントウムシなどと同じく、甲虫(コウチュウ)目というグループに属します。カブトムシなどは水に浸かると死んでしまいますが、ゲンゴロウの仲間はなぜ長い時間、水の中に潜ることができるのでしょうか？

実は、ゲンゴロウは翅(はね)と腹部のすき間に空気を溜めることができ、その空気を使って、腹部の背中側にある気門という部分で呼吸をしているのです。人が酸素ボンベを背負って水中を泳ぐようなイメージでしょうか。ちなみに、昆虫のほとんどが、人のように口から空気をとりこむのではなく、腹部の気門で呼吸をしています。同じ地球にすむ生きもの同士でも、その生態はとても多様なのです。今後も、空土ファームで見られた生きもの不思議な生態をお伝えしていきたいと思います！



田んぼで確認されたヒメゲンゴロウ

3. 調査結果

表. 調査地内で見られた生物種(草本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	スズメノテッポウ	○			
A	オニタビラコ	○			
A	イヌナズナ	○、Fr			
B	ムラサキツメクサ	○			
B	ハルジオン	○			
B	ヘビイチゴ	○、Fr			
B	タチイヌノフグリ	○、Fr			
B	シロツメクサ	○			
B	カキドオシ	○			
B	コハコベ	○			
B	トキワハゼ	○			
B	ナズナ	○、Fr			
B	オオイヌノフグリ	○、Fr			
B	ミミナグサ	○			
B	オオジシバリ	○			
B	タネツケバナ	○			
C	フタリシズカ	○			
C	マムシグサ	○			
C	クワガタソウ	○			
C	ギンリョウソウ	○			
C	オオヤマフスマ	○			
C	エンレイソウ	Fr			
D	ハルジオン	○			
D	ホトケノザ	○			
D	ナズナ	○、Fr			
D	シロツメクサ	○			
D	ヤハズエンドウ	○			
D	タチイヌノフグリ	○、Fr			
D	クサノオウ	○			
D	ムラサキツメクサ	○			
D	オドリコソウ	○			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(木本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	ハリエンジュ	○			
C	ホオノキ	○			
C	ハリエンジュ	○			
C	ミズキ	○			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表. 調査地内で見られた生物種(鳥類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	モズ	v			
B	スズメ	v			
C	キビタキ	s			
C	ヒヨドリ	c			
C	アカゲラ	c			
C	メジロ	c			
C	シジュウカラ	c			
C	オオルリ	s			
C	ウグイス	s			
C	アオバト	s			
C	フクロウ	s		準絶滅危惧(NT)	—
C	サンショウクイ	c		準絶滅危惧(NT)	VU
C	センダイムシクイ	s			
C	コゲラ	c			
C	キジバト	c			
C	ヒガラ	c			
C	イカル	v			
C	エナガ	c			
C	カケス	c			
C	カワラヒワ	c			
C	ホオジロ	v			
D	ツバメ	v			
D	カワセミ	c			
D	ハクセキレイ	v			
D	キセキレイ	v			
範囲外	カッコウ	s			
範囲外	キジ	s			
範囲外	ホトトギス	s			

v:目視 c:地鳴き s:さえずり fl:飛翔 fd:採餌

表. 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	ヒメアメンボ				
A	ツマグロオオヨコバイ				
A	シオカラトンボ				
A	ヒメゲンゴロウ				
A	ヒメアメンボ				
A	モンシロチョウ				
B	ダビドサナエ				
B	アオカミキリモドキ				
B	ルリクビボソハムシ				
B	カワゲラ科の一種				
B	イチモンジチョウ				
B	オツネントンボ				
B	ホソミオツネントンボ				
B	ヒメウラナミジャノメ				
B	シオカラトンボ				
B	キボシアシナガバチ				
B	サビキコリ				
B	ムジホソバ				
B	ヨツボシカメムシ				
B	ツマグロオオヨコバイ				
B	シオカラトンボ				
B	キロスズメバチ				
B	ベニシジミ				
B	チュウレンジバチ				
B	モンキチョウ				
B	ウスバシロチョウ				
B	ナナホシテントウ				
B	ニワハンミョウ				
B	キムネクマバチ				
B	ツバメシジミ				
B	ヒメセアカケバエ				
B	アオハバチの一種				
B	ギンイチモンジセセリ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	NT
B	ホシヒラタアブ				
C	ジョウカイボン				
C	アサヒナカワトンボ				
C	エゾハルゼミ				
D	キロスズメバチ				
D	ツバメシジミ				
D	ハラグロオオテントウ				
D	ハネビロアカコメツキ				
D	ミヤマチャバネセセリ				
D	クロアゲハ				
D	ウスバシロチョウ				

表. 調査地内で見られた生物種(哺乳類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
c	ニホンジカ				
c	ホンドタヌキ	死がい			

表. 調査地内で見られた生物種(爬虫類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	ヤマアカガエル				
A	ニホンアマガエル				
B	ニホンアマガエル				